160　^{123}I-MIBG心筋シンチを用いた急性心筋梗塞例における再灌流療法後の評価

窪田靖志，松原欣也，渡邊雅彦，上床博久，北村和人（京都市立病院　内科循環器科）仁井田秀治，曽根照喜，（同・RI）　杉原洋樹（京都府立医大　第二内科）

^{123}I-MIBG心筋シンチを用いた急性心筋梗塞例の再灌流療法後の評価の意義について検討した。血栓溶解療法＋PTCAまたは単独にPTCAを施行し，完全血行再建した急性心筋梗塞例を対象とした。発症一週間内に，^{99m}Tc-PYP，^{201}Tl同時収集シンチを，また，一カ月以内に運動負荷施^{201}Tl心筋シンチおよび^{123}I-MIBG心筋シンチを実施した。一週間内の^{201}Tl心筋シンチ像と一カ月内の再分布像はよく一致した。^{123}I-MIBG心筋シンチ像は，一週間内の^{201}Tl心筋シンチ像より欠損が大であり，また，^{99m}Tc-PYPの取り込み部位より大であった。

161　MIBGを用いた高度冠動脈狭窄病変におけるPTCA前後の経時的観察

池田　史彦，高橋　哲夫，和井内　由充子，根岸　耕二，安田　三弥，志田　潤治，三本　重治．　（横浜市立市民病院）

冠動脈造影にて，90%以上の冠動脈病変を有し同部の心筋Viabilityが確認されている症例に対して，PTCA施行前で^{201}Tl・^{123}I-MIBGｼﾝﾁｸﾞﾗﾌｨ(SPECT)を施行した．また，PTCAによる虚血の影響を除外するために慢性期にTl・MIBGｼﾝﾁｸﾞﾗﾌｨ(SPECT)を施行した．

以上よりPTCA前・後・慢性期における心臓交感神経活性の評価を試みた．その結果について報告する

162　心筋梗塞症例における遠隔期の改善様式
－^{123}I-MIBG，^{201}TlCldual isotope心筋SPECTを用いて－

石黒　聡，池田基昭，方　眞美，細井宏益，山崎純一，森下　健（東邦大一内）中野　元，矢部喜正（同循診）

^{123}I-MIBG（MIBG）及び^{201}TlCl（Tl）のdual isotope心筋SPECTを用い急性心筋梗塞の回復過程における経時的変化を観察した．対象は急性心筋梗塞（AMI）10症例で全例に対し安静時dual isotope SPECTを施行，視覚的に評価し，さらに3カ月後に同検査を施行し経時的変化を観察，また左室壁運動と比較した．SPECT像におけるhypoperfusion areaは急性期でTl像に比しMIBG像で広範で，遠隔期に改善を認める症例ではTlに比しMIBGで改善が遅延する傾向にあり，さらに壁運動異常が改善した症例ではMIBGでも改善を示す傾向が認められた．以上よりAMI後の左室壁運動異常は交感神経機能低下と関与している可能性が示唆された．

163　PTCA施行後にみられる運動負荷^{201}Tl心筋シンチグラフィ(負荷心筋シンチ)の偽陽性の臨床的意義

松田順子、土居英生、新名洋美、長友美達、小岩屋靖、江藤胤尚(宮医大　1内)、陣之内正史、星　博昭（同放科）

PTCA施行後にみられる運動負荷心筋シンチの偽陽性の臨床的意義について検討した。

対象はPTCA施行前、直後(2週間以内)、慢性期(3-4ｶ月後)に負荷心筋シンチを、また、慢性期に確認冠動脈造影(CAG)を実施した70例である。PTCAが成功し、再狭窄を認めなかった20例(29%)において、PTCA直後には、PTCA前と同じ部位に一過性の灌流欠損が認められた。しかし、同部位のinitial uptakeは慢性期には増加し、一過性灌流低下の程度も軽減していた。PTCAが成功した後の運動負荷心筋シンチの改善はstunned myocardiumの存在を示唆している可能性がある。

164　coronary interventionの効果判定における運動負荷心筋ECTの有用性についての検討

辻本　豪，大西一男，福原正博，足立和彦（神戸労災病院内科）

経皮的冠動脈バルーン拡張術（PTCA）成功例を対象とし，術前後に運動負荷心筋ECT（ECT）を施行し，PTCA効果の判定におけるECTの有用性とそれに影響する因子につき検討した。

PTCAに成功した狭心症15例を対象とした。PTCA前後のECTより左室展開図を作成し，左室を各々5領域に分割し，PTCA施行冠動脈により灌流される26領域を対象とした。各領域においてPTCA後，ECT所見の改善をみるものを改善群，他を非改善群とした。

PTCA施行前の冠狭窄度（実測）は改善群において非改善群に比し有意に高度であったが，側副路の有無については両者間に有意差を認めなかった。

Presented by Medical*Online